

# 気管支喘息児の学校生活の充実度に関する アンケート調査

## 施設入院療養児に関して

(分担研究：長期療養児の心理的問題に関する研究)

豊島協一郎、土居悟、井上寿茂、高松勇、  
村山史秀、亀田誠、岡田正幸

要約：施設入院療法を必要とする難治性喘息児の入院前の地域校での学校生活の充実度をアンケート調査し、前年度の通院喘息児、慢性疾患児、急性疾患児の結果<sup>1)</sup>と比較したところ、難治性喘息児は学校欠席が多く、学習成績が不良で、校友からの評価も、自己イメージも低い。又学校での医療的処置の必要性が高く、保健室利用も多い。施設入院療法にあたっては、治療プログラムにこれらの点の改善についても盛り込まねばならない。更に病弱養護学校だけでなく、一般校においてもこれらの患児に必要な教育プログラムの開発ならびに医療的機能の充実を考えねばならない。

見出し語：気管支喘息、施設入院療法、学校生活

はじめに 気管支喘息児の学校生活の充実度に関するアンケート調査の結果を、その他の慢性疾患児、急性疾患児と比較して前年度<sup>1)</sup>に報告した。コントロール良好な軽一中等症の喘息児では比較的積極的に学校生活に参加できているとの結果であったが、今回施設入院療法を必要とする難治性喘息児について同様のアンケート調査を実施した。

方法と対象 1994年4月から8月に羽曳野病院で施設入院療法を受けた小学校4年生以上の気管支喘息児23名(男9人、女14人)に、前回報告したアンケート票を用いて、入院前の地域の学校での生活について調査した。

結果と考察 重症度は日本アレルギー学会重症度基準で重症5人、中等症13人、軽症5人であった。学年は平均7.0年(中学1年)で前回報告の気管支喘息児と差はない。学業成績は表-1のとうりで、良いとする者は全くなく、悪いとする者の比率が高く、自己イメージが低い。好きな科目は理科(21.1%)、体育(15.8%)、音楽(15.8%)で、外来通院の喘息児と余り変わらない。嫌いな科目では、算数・数学(42.1%)、英語(26.3%)、社会(21.1%)と、算

数・数学を嫌う者の比率が著しく高かった。

学校欠席は年間平均5.1日で、調査対象の入院前の日常生活障害の程度がよく分かる。体育授業への参加状況は表-2のとうりでいつも参加するは14.3%と極めて少なく、殆ど見学が23.8%もいた。プールへの参加状況は表-3に示すように、休む者が多く、他の慢性疾患児と同様参加させて貰えない者が10%近くいた。

気の合う友人は施設入院療養児で平均6人であったのに対し、通院喘息児12人、慢性疾患児7.5人、急性疾患児11.5人で、施設入院療養児と急性疾患児とは $p < 0.05$ で有意差があり、施設入院児の地域校での校友関係の消極性が窺われる。生徒会やクラスの役を引き受けている状況は表-4のとうりで、他の慢性疾患児以上に役を引き受けている者が少なく、地域校での患児達の評価の低さが考えられる。

学校行事(遠足、運動会、耐寒訓練)への参加を拒否されたり、修学旅行などの宿泊行事への参加を拒否された経験のある者は2人だけで、以前よりは学校の難治性喘息児に対する配慮は進んでいると考えられた。

保健室の利用状況は表-5のとうりで、どの患児群よりも際だって利用していた。また学校で服薬や吸入をす

大阪府立羽曳野病院アレルギー小児科

Department of Pediatric Allergy, Osaka prefectural Habikino Hospital

る様子は表-6のとうりで、施設入院療法を必要とする難治性喘息児は学校での医療対応が重要である。

病気のことで嫌な思いをしたり、からかわれたりした経験は表-7のとうりで、多くの難治性喘息児が嫌な思いをしているようであるが、一方病気のことで学校の友人から励まされた経験も表-8に示すように大変多い。即ち学校の中で病気を持つ子供と強く意識されているの

であろう。

参考文献

- 1) 豊島協一郎ほか：気管支喘息児の学校生活の充実度に関するアンケート調査、厚生省心身障害研究、小児の心身障害予防、治療システムに関する研究、平成5年度研究報告書

表-1 成績はどの程度でしたか \*\*:p<0.05 \*\*:p<0.01

	良い	普通	悪い	$\chi^2$ 検定
施設入院喘息	0	12(60%)	8(40%)	n.s
通院喘息	18(19%)	61(65%)	15(16%)	
慢性疾患	2(4.4%)	33(73%)	10(22%)	
急性疾患	10(24%)	29(69%)	3(7.1%)	

表-2 たいそう(体育)の授業への参加は

	いつも参加	ときどき見学	殆ど見学	$\chi^2$ 検定
施設入院喘息	3(14.3%)	13(61.9%)	5(23.8%)	n.s
通院喘息	76(78%)	21(22%)	0	
慢性疾患	35(74%)	9(19%)	3(6.4%)	
急性疾患	38(88%)	5(12%)	0	

表-3 プールへの参加は制限されましたか

	制限無し	目印で参加	参加禁止	制限ないが時々休む	$\chi^2$ 検定
施設入院喘息	11(52.4%)	2(9.5%)	2(9.5%)	6(28.6%)	n.s
通院喘息	79(84%)	0	0	15(16%)	
慢性疾患	34(75.6%)	5(11.1%)	4(8.9%)	2(4.4%)	
急性疾患	37(92.5%)	1(2.5%)	0	2(5.0%)	

表-4 生徒会やクラスの役をしていましたか

	はい	いいえ	$\chi^2$ 検定
施設入院喘息	3(13.6%)	19(86.4%)	n.s
通院喘息	40(41%)	57(59%)	
慢性疾患	9(21%)	33(79%)	
急性疾患	15(35%)	28(65%)	

表-5 保健室を利用したことがありましたか

	良くある	稀にある	ない	$\chi^2$ 検定
施設入院喘息	10(43.5%)	7(30.4%)	6(26.1%)	n.s
通院喘息	5(5%)	50(52%)	42(43%)	
慢性疾患	8(17%)	22(47%)	17(36%)	
急性疾患	0	27(69%)	12(31%)	

表-6 学校で良く薬を飲んだり吸入したりしましたか

	はい	稀にある	いいえ	$\chi^2$ 検定
施設入院喘息	9(39.1%)	5(21.7%)	9(39.1%)	n.s
通院喘息	8(8%)	13(13%)	77(79%)	
慢性疾患	1(2.3%)	7(16%)	36(82%)	
急性疾患	0	3(7.5%)	37(93%)	

表-7 病気のことで学校で嫌な思いをしたり、からかわれたりしたことがありましたか

	はい	いいえ	分からない	$\chi^2$ 検定
施設入院喘息	7(33.3%)	12(57.1%)	2(9.5%)	n.s
通院喘息	8(8.3%)	79(82%)	9(9.4%)	
慢性疾患	8(17%)	36(77%)	3(6.3%)	
急性疾患	2(5.1%)	36(92%)	1(2.6%)	

表-8 病気のことで学校の友人から励まされたことがありましたか

	はい	いいえ	分からない	$\chi^2$ 検定
施設入院喘息	13(56.5%)	4(17.4%)	6(26.1%)	n.s
通院喘息	29(30%)	53(55%)	15(15%)	
慢性疾患	11(24%)	26(57%)	9(20%)	
急性疾患	6(15%)	31(79%)	2(5.1%)	



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:施設入院療法を必要とする難治性喘息児の入院前の地域校での学校生活の充実度をアンケート調査し、前年度の通院喘息児、慢性疾患児、急性疾患児の結果 1)と比較したところ、難治性喘息児は学校欠席が多く、学習成績が不良で、校友からの評価も、自己イメージも低い。又学校での医療的処置の必要性が高く、保健室利用も多い。施設入院療法にあたっては、治療プログラムにこれらの点の改善についても盛り込まねばならない。更に病弱養護学校だけでなく、一般校においてもこれらの患児に必要な教育プログラムの開発ならびに医療的機能の充実を考えねばならない。